

「がんと免疫」セミナー

がんにおけるマクロファージの役割 — がん免疫との新たな接点 —

講師： 菰原 義弘 先生

熊本大学大学院生命科学研究部
細胞病理学 准教授

日時 2015年12月10日(木) 18:00～19:30

場所 医学図書館 3階 視聴覚室

従来からマクロファージは、病原菌の貪食や炎症の誘導など生体防御に欠かせない細胞として知られてきたが、その後の研究により、**動脈硬化**、**メタボリックシンドローム**、**創傷治癒**、**悪性腫瘍**などの病態形成にも深く関与することが明らかとなった。マクロファージの機能に関して、細菌感染やインターフェロンによって活性化された**M1タイプ・マクロファージ**は抗原提示や炎症促進に関わるが、IL-10などの抗炎症性サイトカインで刺激された**M2タイプ・マクロファージ**は組織修復や免疫抑制を誘導する。ヒト病理検体においては、HLA-DRやCD169がM1タイプ・マクロファージの、また、CD163やCD204, CD206がM2タイプ・マクロファージのマーカーとして有用である。このような分化マーカーを用いた多くの研究から、M2マーカーを発現した**tumor-associated macrophage (TAM)**が多い症例ほど予後が悪いことが明らかとなり、M2タイプTAMの癌進展における重要性が示唆されている。今回のセミナーでは、ヒト悪性腫瘍におけるマクロファージの重要性や治療標的としての可能性についてお話したい。

大学院講義(基礎免疫学 I (75), 腫瘍免疫学 I (79), 移植免疫学 I (81))を履修している学生はできるだけ出席して下さい。

問い合わせ先： 原田守 免疫学 (内)2150